

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら (2ユニット合同)		
所在地	静岡市清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=2274201769-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街からは少し離れていますが、その分車の通りも少なく、自然にあふれており、山や川など四季折々の風景を楽しむことができます。
また、利用者の方には、日々の暮らしのなかでも季節を感じてもらおうと、季節に応じたイベントを取り入れたり、個別やグループ別の夕食や外出を行い、楽しみをもって生活できるよう努力・援助しています。
医療面では系列の病院と24時間体制で連携をとり、怪我や病気に即座に対応できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名清水ICから車で10分、街中から離れ長閑な果樹園が広がる場所に事業所はあります。本年1月に着任したフレッシュな管理者の下、新たなスタートを切っています。秋祭りには地域代表からの申し入れで休憩所として駐車場を開放し、立ち寄った子ども神輿に利用者の笑顔も綻びました。昨年度5名の職員が介護福祉士に合格し、介護技術や接遇などプロ意識を持って新人職員に向き合う小気味よい緊張感があります。こっそり話したい人、憤りをあらわにする人それぞれの対応をわきまえ「あせらず急がずゆとりをもって穏やかに、の理念が実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H25年6月職員全員で理念を考え、目に付くところに提示し共有することで実行に移しています。	"あせらず急がずゆとりをもって穏やかに、特に唱和はしていませんが満場一致で決まった理念でわかりやすいため浸透しています。日々のケアで急いでしまう場面もありますが、都度立ち戻る原点となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方に会ったら必ず挨拶を交わしています。また、定期的にはありませんが、自治会長、民生委員の方にも挨拶に伺いホームの現状などの話をしています。	新管理者として自治会、民生委員に挨拶に出向き、どんど焼きや防災訓練にも出かけています。自治会長からの進言で秋祭りに子ども神輿が立寄り、敷地内を休憩所として提供しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には、ほぼ玄関を開放しています。いつでも認知症についての相談など、情報を共有又は提供できる環境を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見や評価を参考にしながら、サービスの向上を目指しています。	家族を中心に2ヶ月ごと土日開催としています。流しそうめんやクリスマス会行事と併催し、本人の様子が分かってよかったとの言葉もありました。行政にも参加を呼びかけ開催日時についても検討をしていく予定です。	参加メンバーを再検討し、より充実した会議となるよう期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前年度より、市から相談員が月1回来所してくだり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいます。	運営推進会議への出席は得られていませんが月に一度介護相談員が訪問し、利用者はじめ職員の話にも耳を傾けてもらえ心の支えとなっています。口頭での報告に留まっていますが書面での共有を考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げ、身体拘束廃止委員会が中心になって意識をたかめています。年1回の身体拘束廃止フォーラムに参加しています。	玄関施錠、エレベーターロックはありません。県の『身体拘束廃止フォーラム』には毎回職員を派遣してドラッグロックやスピーチロックといった種類があることを学び、カンファレンスで落とし込んでいます。柵の無いベッドからの安全な起居動作へも目配りがあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議で虐待が無いかなど、話し合い意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約を締結できるようしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。家族の口頭での意見もノートに書置きし、職員全員が情報を共有できるようにしています。	ユニット毎に『家族ノート』を作成し、面会時における存意を記録して報連相を徹底しています。ケアプランの長期、短期目標の満足度検証と合わせ事業所からの積極的な働きかけをもってこまめな聴取が叶っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個別の面談を行い意見や提案、要望などを反映できるように努めています。	月に一度のスタッフ会議では発言を促し、どの職員からも活発な意見発表があります。法人グループホーム共通で面談用紙を準備し個人面談の実施が決まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望がある時には、勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度姉妹グループホームの管理者で会議を行い、意見交換をし情報交換、共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、出来るだけ早く本人に安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話を聞き、解消出来るよう努めています。毎月利用者の近況報告や要望等手紙にてお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを取りながら、本人や家族の希望を伺いグループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等の造作物を作成することで、共同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう通知を出す等して、気軽に来所していただける雰囲気をつくっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族、知人に手紙や年賀状を出したり、面会時にはゆっくり話ができるような環境を提供しています。	コンサートが開かれる馴染みのレストランまで、家族と共に着飾って出かける日を心待ちにする人や、10年間通い続けたデイサービススタッフがお祝いを届けてくれた感激の対面もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるように、リビングの座席の配置を考慮したり、孤立することが無いように職員が間に入り関係を保つように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後も、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉を傾聴、受容し、一人ひとりの希望意向を把握するよう努めています。利用者本位の考えをしていくよう、職員に指導しています。	些細なことでも気づきは介護記録に書き留め、カンファレンスで暮らし方の趣きを推し量っています。はい、いいえ、で応えられる質問や筆談で本人の真意を探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からこれまでの生活観や環境を聞く、または以前サービスを受けていた場所からの情報提供を通じて、なじみの暮らし方の把握をできるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合って情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをとり、計画作成担当が本人や家族の意見をまとめて介護計画を作成する。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合なども、必要に応じてその都度見直している。	モニタリング表にある本人、家族の『満足度』欄で感想や要望を収束してプランに反映しています。『介護サービス実施記録』で支援内容を明記してチェックし、現場職員との共通理解を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	H26.9月より個々の介護サービス実施記録を作成し、長期、短期目標を達成する為に、スタッフが内容を確認しサービスができた日には印を押し、月末にサービスが適切に提供されているか明確にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応していきたいと思っておりますが、現段階では多機能化への取り組みは行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の特徴を調査、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院へ希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合、家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有が出来るようにしています。	歯科、整形外科も含まれ24時間連絡可能で指示が受けられる系列病院に現在は全員が変更しています。受診には職員が付き添い、結果は電話で家族へ連絡されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携をとりながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合っており、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、事業所で出来る事と出来ない事を説明し、同意をいただいています。	看取りはおこなっていません。契約時に予め同意を得ていますが、重度化する前に話し合いの機会を設け受入れ可能機関の紹介もしています。協力医からは「朝食を食べられない利用者はすぐに受診」との告知があり体調変化には慎重な対応があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるよう努めています。また、急変時の対応マニュアルを用意いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事象を想定した防災訓練を、年2回行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。	日中、台所出火を想定した避難訓練では通報、初期消火までの流れを把握し、全利用者を非常階段から下ろしています。一名を救助するために、抱えたり車椅子を使って10分という時間がかかることを体験しています。	消防署員のアドバイスを含め、実践的な訓練がおこなわれることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは日々教育、指導しておりますが、時々強い口調が聞かれる事もあります。	気になる言動は職員同士都度注意していますが、言いにくい時には管理者から伝えています。憤りをあらわにする人、こっそり話したい人、それぞれの対応をわかまえている職員を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にしています。個々の希望を表現しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回、任意での散髪を行っています。また、本人の希望にあわせた服装をしてもらえるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面に考慮しながら、食事前のテーブル拭きやランチョンマット並べを職員と一緒にしています。	車椅子利用者が増え外食も困難なため、目先を変え出前やバイキング形式でお楽しみを作っています。職員も席について同じ物を食べ、ゆとりをもって穏やかな空間となりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは栄養士により管理されています。水分量も不足しないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用者は許可を得て眠前に預かり、洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄を行っていただくよう支援、援助しています。	紙パンツから布パンツへの移行を視野に、排泄のパターンが確認できるまでチェックシートを活用して把握し、立位が取れない一名を除きトイレでの排泄を支援しています。夜間は安眠優先としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、いつでも本人の希望で入浴できるようにしています。また、好みにより入浴剤も使用しております。	一日3～5人を目安として週2回以上の入浴としています。夜勤帯を除き希望する時間や毎日入りたい人にも応じています。入浴剤は3種類の用意があり好きなものを選択できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬の説明書をよく読み、理解した上で服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書、工作など、利用者がゆっくりと過ごせる環境を提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が中心になり個別及びグループ別に外出援助をしています。	一周15分ほどの事業所周辺を散歩したり外気浴を兼ね、大勢で体操や歌、ボール投げに興じる日が多々あります。花見や七夕祭り見学など外出先での利用者の表情が豊かなことから、「大変だけどやりがいがある」と職員の張合いにもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人と家族の希望により、少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入することが出来るよう勤めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要があれば取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器を利用し過ごしやすい環境を提供しながらも、適宜空気を入れ替えるなど、工夫して生活環境を整えています。	玄関で飼育されている『亀蔵』は利用者の人気者です。陽当たり良いリビングで日中は暖房も必要ないほどです。はり絵やレクリエーションに職員と一緒に取組み利用者間の会話や笑い声が響く日が増えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるかのような空間作りを目指しています。	折り紙工作好きな利用者の作品がそれぞれの入口にかけられています。また微笑ましい手作りお守りや御札に見守られた居室もありました。全室毎朝の換気を怠らず濡れタオルで乾燥を防いでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビングやトイレなどには手摺りを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		